

原発事故被害者 相双の会

連絡先

國分富夫(会長)

住所

〒965-0013 会津若松市堤町6-12

電話 090(2364)3613

メール

kokubunpi-su@hotmail.co.jp

事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133(浪江)

関根憲一 090-4889-3726(富岡)

板倉好幸 090-9534-5657(南相馬)

ADR 和解前に、大勢が無念の死

—話し合い、行動を起こし、生活再建の道をきりひらきましょう—

「東電と和解前 238 人死亡」(12月25日 福島民友新聞)と悲しい事実が報道されました。

福島第一原発事故で浪江町民約15,000人が原子力損害賠償紛争解決センター(ADR)に申し立てたが、申立人の内、和解前に238人が亡くなってしまったと言うのです。

私たちは被災者の生活再建を最重要課題にして取り組んできましたが、加害者である東電は、和解もただらと引き伸ばし、誠意ある対応をしていないのが現実です。

これでは、東電からは冷たくあしらわれ、迅速に解決できるからとADRに頼った被害者も救われません。

原発事故からもう4年になります。低線量被ばくが心配なのはこれからだと思います。

セシウム134は半減期は2年ですが、今後はセシウム137(半減期30.)ですから線量は下がらず、一定の深いところに放射性物質はあると考えられるので安心とは言えません。

国も県も、除染後20 μ mシーベル以下であれば避難は解除し、一度除染した所は二

度と除染しない考え方ようです。こんなことで、解除後に帰還した子供たちが安心して生活出来るでしょうか。低線量だから安心だと言う学者もいますが、実証されていません。多くの学者は、「いくら低線量だと言っても被ばくするよりは被ばくしない方が良い」と言います。命は一つだけです。一度命を失えば戻ってきません。

福島第一原発事故により何十万人もの人が多かれ少なかれ被ばくしました。また被害者は全ての財産を失い先が見えない状況です。東電も政府も素早く対応しなければならぬにもかかわらずのりくらりです。その間も多くの方が亡くなり、関連死、自死者が多くなってしまいます。避難生活が続き被害者は半病人になってきているように思われます。

「相双の会」には、全国から交流の要望と激励の声が寄せられています。福島に視察に来た大勢の皆さんは、原発をなくすことと避難者・被害者の支援のために自分は何ができるのか、真剣に考え行動しています。このままではなんの解決にもならないと裁判訴訟へと立ち上がる避難者も増えて

います。

皆さんで話し合い、声を上げ行動を起こしましょう。

放射能“封じ込め”果てしなき闘い



中間貯蔵施設は最終施設……？！

中間貯蔵施設は30年過ぎれば県外の最終処分場へ移すことになっている。しかしその最終処分場が一向に決まらない。なのに中間貯蔵施設だけは、30年という空約束だけで、強引につくろうとしている。中間貯蔵施設がある所は今後どうなっていくのか、

中間貯蔵施設の地権者や双葉町、大熊町だけの問題ではないだろう。その近隣市町村に何が強いられるだろうか。各地からの汚染物のトラック輸送は、膨大な量で幹線

道路を占領状態にする。しかも何年かかるのかわからないという。

原発の廃炉はそれどころでない。何十年もかかるでしょう。廃炉作業で、超高線量の廃棄物が膨大に出る。それはどこにおくのか。現在、第一原発の敷地内の汚染水すら処理失敗の連続で展望はない。このような有様ですから百年たっても完全には廃炉処理が出来ないかもしれない。

このような状況の中で安心して帰還でき



中間貯蔵施設予定地（大熊町）

るでしょうか、20年30年後福島県の浜通りをはじめとして原発周辺はどうなるのか誰もわからない。予測もつかないでしょう。

安倍総理以下の閣僚たちも、腹の中では「もうどうしようもない。時間をかけて中間貯蔵施設＝最終処分場とする既成事実をつくるしかない。何十年も先まで俺は生きていないし、どうなろうと知らない」と考えているのではないだろうか。

政府は性懲(しょうこ)りもなく青森の大間原発をはじめ新原発を建設中だ。川内原発再稼働に国が責任を持つという。福島原発の後始末も出来ずに無責任きわまりない。

アメリカの国土面積は日本の約25倍(日本:377,835km² 米国:9,626,630km²)。アメリカの原発は104基、日本は54基稼働してきた。日本の原発数からすればアメリカは1,350基になる。

アメリカはスリーマイル島原発事故(1979年3月28日)以来36年間新規の原発はない。現在、アメリカで廃炉になっていく原発が多いが、広大な国土であっても最終処分場が無く、大きな問題となっているという。小さな島国日本では、どうしようもない。

避難者訴訟第9回の口頭弁論

前段集会・傍聴にご参加ください

■日程 2月18日(水)

■前段集会……12時30～いわき市飯野八幡宮

■会場所在地…飯野八幡宮…いわき市平字八幡小路84…0246-21-2444

福島地裁いわき支部…いわき市平字八幡小路41…0246-22-1321

原告からの実態証言がされます。

東京南部バスツアー(10月25～26日)感想(続き)

10月25日26日の二日間原発被災地交流と視察バスツアーに参加し「百分は一見にしかず」のことわざ通り、現場を見、被災者の直の声を聞く大切さを強く感じました。

「希望の牧場」の見学とその存在の意味、次の仮設住宅での交流の中で被災者の置かれている町が崩壊、家族がバラバラの現状という深刻

な状況を知ることが出来ました。

二日目の國分さんのパワーポイントを使った説明はほんとうに映像で原発の恐ろしさ、人や暮らしを根こそぎ奪ってしまう。原発は人類と共存しないということを胸に刻みました。本当に参加して良かったと思います。東京の地で福島を忘れない、裁判闘争の支援、連帯、反原発

の運動を続けていきたいと思います。(男性)

現地の生の声が聞けて良かったです。

東京にいと他人事であり、忘れることも出来る。しかし、現在でも多くの苦勞を重ねさせられている人たちを忘れてはいけないうし、寄りそう事が必要だと思ひます。そのためには、自分は何をしなければならぬのか常に自問自答して行く事が己の責任だと思ひます。自分は部落差別撤廃、部落完全解放をめざし運動をしています。福島原発の被害者の人たちもやはり差別構造に組み込まれているのを実感しました。

今後も運動に多く取り組んで行きたいと思ひます。(男性)

東電と国は被災者ばかりでなく、全ての動物の命まで脅かしている。被ばくしている「希望の牧場」の牛もそうであった。闘志がムラムラと燃えてきたのを覚えている。國分さんがパワーポイントで言っていたように「日本という国は犯罪者を優遇する国だった」と、正に合っているような気がする。(男性)

強制避難により仮設住宅、借り上げ住宅などに避難民として先の見えない不安、本当に辛い生活。マスコミも報じない中、直接お話を聞く機会は貴重でした。

原発事故に対し誰も責任を取らない。皆さんの、国、東電への深い深い怒り。

國分さんの報告はとても分かりやすく、強い者に弱く、弱い者に強い。東電の姿勢は正さなければならぬと思ひます。加害者が責任を取らない、被害者が時間とともにどんどん追い詰められていることを多くの人が知っていかなければと思ひます。まずはご近所のママ友に報告会をする事にします。(女性)

大変貴重なお話を聞くことが出来ました。原発のことは何となく分かったつもりで今したが、仮設住宅でのお話を聞き現実の重みを再確認させられた重いです。

黄色いセイタカアワダチソウが延々と広がる田んぼ、日常生活をそのまま残すコンビニや死の街の様子、実際に見ることができ私自身忘れてしまひそうになっていることを深く反省した次第です。(女性)



福島へ視察に二回こられ、「相双の会」と交流を深めている千葉県「なのはな生協」の皆さん。東京での脱原発集会にて

「相双の会」 会報に ご意見を

是非ご投稿をいただき「声」として会報に載せたいと考えています。匿名でもけっこうです。

電話 090 (2364) 3613 メール (國分) kokubunpi-su@hotmail.co.jp

